令和４年度　中津川市立福岡中学校　学校通信　第６号

雨ニモマケズ

８月２６日

「環境整備作業の意味」

校長　原　直樹

夏休みも終盤、つい先日８月２１日（日）、PTA 環境整備作業がありました。１年生の生徒のみなさんお疲れ様でした。PTA 本部役員の皆様、そして１年生の保護者の皆様、ありがとうございました。おかげさまで、夏休み中に伸びに伸びた草が取り去られ、福中周りが随分とすっきりきれいになりました。一人の力も、大勢集まれば、こんなにも大きな成果が得られるものなのだと実感しました。

ところで、環境整備作業のために、大勢の大人と子どもが集まって作業をすることに、私は、大きな意味があると考えるようになりました。それは、先日、中津川市教育研究会の講演会において、廣瀬隆人先生という方のお話を聞く機会があったことからです。廣瀬先生は、学校で行う特別活動の全ては、豊かな地域社会づくりに繋がっていると教えて下さいました。

＜廣瀬先生の講演から＞

・・・良い子を育てることではなく、よりよい社会をつくる主体となる大人を育てることが求められている。「自分さえ良ければ良い、誰かがなんとかしてくれる」と考えるのではなく、「自分以外の人たちのこと、地域に住むいろいろな人たちのこと」を考えるような大人を育てる必要がある。「今よりもっと良い社会」を創る力を育てるには、学校や保護者だけでなく、地域の人たちにも手伝ってもらいながら、大切に育てたい。そのためには、保護者自身が地域活動に参画する姿勢を子どもに見せることから始めたい。・・・

今回の環境整備作業は、学校内の行事かもしれませんが、地域の大人と子どもが集まって、きれいにするという目的に向かって、みんなで汗を流すというところに意味があったと思います。廣瀬先生のお言葉を借りれば、「保護者自身が地域活動に参画する姿を子どもに見せること」そのものであったと思います。学校という公共の施設を、お金を出してどこかの業者にきれいにしていただくこともあります。しかし、地域の大人や子どもがみんなで集まってきれいにすることの方が何倍も大切であるということです。そこに価値を見いだせる大人を育てることが、よりよい地域を育てることに繋がっているということです。

今回、作業をする中で、私は、何人もの保護者さんとお話をする場面がありました。教員の立場からいえば、作業を通して、いろんな保護者さんと繋がりをもてる良い機会でもありました。保護者や地域と学校が繋がりをもつ場でもあったわけです。

大人達の、このような姿を、子ども達に見せる絶好の場、環境整備作業には大きな意味があります。